

## 令和4年度「学校教育自己診断」の分析結果及び考察

### ○令和4年度における質問項目の設定

昨年度の質問形式を基本として考え、今年度より本格的に実施している「ひとり一台端末」の活用についての項目が追加されている。

### ○アンケートの回答方法

生徒、保護者向けには配布したプリントを回収して集約した。教員向けはGoogleClassroomで回答しスプレッドシートで集約した。A B C Dの4段階での評価とした。

### ○アンケートの実施方法

生徒・保護者向けには10月に配布した。教員向けも10月にClassroomで実施した。

### ○回答数

	総数（回収率）	（参考）令和3年度
生徒アンケート	133（94.3%）	137（97.9%）
保護者アンケート	131（92.9%）	132（93.6%）
教員アンケート	67（100%）	63（100%）

※今年度は、昨年度より保護者の回収率が低くなった。

### ○生徒アンケートについて

肯定率の平均 83.5%（昨年度86% 2.5ポイント低下）

回答 1年46 2年44 3年43 計133

昨年度より全体的な肯定率が2.5ポイント低下した。特に「授業はわかりやすく、楽しい。」の項目が約14ポイント低下している。2, 3年生で70%を切っていることには、危機感を抱いている。学校生活の基本は授業であることから、生徒のニーズをより細やかに捉え、ICT機器も必要に応じて活用し、生徒にとって充実した学びになるよう指導の改善を図る必要がある。「現場実習を通して、働くことの意欲が高まった。」は約5ポイント上昇している。特に学年が進むにしたがって上昇し、3年では93%の生徒が働くことへの意欲の高まりを実感できている。これは職業学科を設置する本校のめざす「知的障がいのある生徒が就労を通じて社会的自立をめざす学校」に近づいていることが実感できた。

### ○保護者アンケートについて

肯定率の平均 87.6%（昨年度86.3% 0.7ポイント低下）

回収率、肯定率ともに0.7ポイント低下している。1%未満ではあるが低下しているので、次年度は上昇するよう周知方法を検討していきたい。「学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」の項目が7.3ポイント上昇した。本校ではいじめやそれに類する事象が起きた場合には、すぐに担任から学年主任、首席、管理職へと情報共有がスムーズにできるような体制づくりを進めていることが寄与している

と考えられる。今回新設した項目「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」は76.2%と比較的低い水準であった。現状で一人1台端末は学校での使用が中心で、家庭に持ち帰ることがほとんどないため、活用している場面を見る機会が少ないことが一因であると考えられる。出席停止等で家庭学習をする場合に家庭に持ち帰ることはできるが、学びの連続性を考えたときに、家庭での活用を検討していくことの必要性も感じている。

#### ○教員アンケートについて

肯定率の平均 89%（昨年度85% 4ポイント上昇）

昨年度に引き続き、回収率100%を達成できた。特に「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう工夫・改善を行っている。」「教育活動に必要な情報について生徒・保護者や地域への周知に努めている。」の項目がそれぞれ8、10ポイント上昇した。これは感染症に対する行動制限が少しずつ緩和されたことで、学校行事や地域での活動が実施できるようになってきたことが大きく影響していると考えられる。また、「アセスメントについて理解し活用することで指導効果をあげることができた」や「本人や保護者のニーズを正しく捉え「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成することができている。」の項目が11、14ポイントと大幅に上昇している。これは大阪府教育センターのパッケージ研修を活用したキャリアアセスメントの研修や校内研修などを実施したことが、教員の実感として表れているのではないかと考えられる。